ぶがくのもとひぎよれうゑやくはの甄物、おそらくばていけつも仙洞も、これにはすぎじとぞみえし、

〔愚管抄六〕九條殿○藤原兼實は、攝籙本意にかなひて物もなかりし、興福寺南圓堂の御本尊不空羂索等、丈六佛像、大伽藍、東大寺とはなほ並べて作られけり、同○建久五年九月廿二日興福寺供養也、甚雨なりけり、前の日殿は春日詣せられけり、中納言以下騎馬と聞えき、御堂○道長の御時より始まれる例にや、あまりなる事なりと人思ひけり、

〔增鏡六おりゐる雲〕春すぎ夏たけ年さりとしきたれば、康元元年にもなりにけり、大きおとゞ○藤原實氏の第二の御むすめ、○後深草公子后女御にまゐり給ふ、女院○後嵯峨后姞子も御はらからなれば、すぐし給へる程なれど、○公子時ニ年二十四、天皇ヨリ長ズルコト十一ナリ、かゝるためしはあまた侍るべし、○中略かくてことしはくれぬ、正月○正嘉元年いつしか后にたち給ふ、たゞ人の御むすめの、かく后國母にてたちつゞきさぶらひ給へるためしまれにやあらむ、おとゞの御さかえなめり、御子ふたり大臣にておはすんけ、きんもと、とて、大將にも左右にならびておはせしぞかし、これもためしいとあまたは聞えぬ事なるべし、我御身太政大臣にて、ふたりの大將を引ぐして、最勝講なりしかとよ、まゐり給へりし御いきほひのめでたさはめづらかなる程にぞ侍りし、后國母の御おや、御門の御おほぢにて、まことにそのうつはものにたりぬと見え給へり、むかし後鳥羽院にさぶらひしゑもつけの君は、さる世のふるき人にて、おとゞに聞えける、

藤なみのかげさしならぶみかさ山ひとにこえたる木ずゑとぞみる、かへしおとゞ、

おもひやれみかさの山のふぢの花さきならべつゝみつるこゝろを、かゝる御家のさかえを、身づからもやむごとなしとおぼしつゞけてよみ給ひける、

はるさめはよものの草木をわかねども、ゑげきめぐみは我身なりけり、